



[デイトム]  
DATUM

**タイムレスなデザインを  
最先端素材でアップデート!**

100年以上も前から存在するクラシカルなリュックを、強靱かつ軽量のコーデュラナイロンプラスで再現。荷物をガンガン詰めこめて、普段使いもハイキングも対応。W 30×H 39×D 14cm。1万2000円(デイトム/林五)



[エムアイエス]  
MIS

**軍需工場製のバッグなら  
アウトドアでも頼もしい!**

迷彩柄が男前なリュックは、生地もファスナーもミルスベックを追い求めたタフな作り。開放部が大きく、キャンプ道具の出し入れもラク。W 30×H 42×D 14cm。1万8800円(エムアイエス/キャプテンズ ヘルム トーキョー)



[ハイパーライト マウンテンギア]  
HYPERLITE MOUNTAIN GEAR

**軽さを求めたデザインが  
新世代ハイカーに人気!**

軽量装備でハイイクする“ウルトラ・ライト”というムーブメントの中核を担うブランド。このバックパックも539gの超軽量設計。W 27.9×H 53.3×D 16.5cm。2万9800円(ハイパーライト マウンテンギア/ムーンライトギア)

【サファリ】  
いかにいかにしても冒険精神!

# Safari

2018  
FEBRUARY  
2018年2月号

“頭”隠して  
“足元”隠せず!?  
**男の本性は  
ボトムに出る!**

究極じゃないからこそ、  
安心して使ってください!  
**すべて  
USAメイドの  
欲しいもの!**

Safari 2月号



21 Made in USA catalog

Proudly  
MADE in USA!

国自体がめちゃくちゃ広いアメリカ。自然環境も多様なら、そこで暮らす人たちの生活様式も多彩。そんなマルチなライフスタイルに対応するためなのか、バックパックの選択肢もびっくりするほど豊富。たとえば、林業が盛んなミネソタ州ではガシガン使えるオイルドロスのリュックが人気で、自転車文化が息づくSFではチャリ向けの機能が必須だったりする。さて、今度行く街にはどれを背負っていくだろうか?

# 行き先、用途に合わせて選びたい さあ、どの バックパックで どこへ行く!?



[タナーグッズ]  
TANNER GOODS

**流行に左右されない  
タイムレスなデザイン!**

少数精鋭の職人たちが手掛けるポートランドのブランド。ワックスドキャンバスにブライドルレザーを組み合わせ、ずっと使える一生モノに。W 35.5×H 45.7×D 15.2cm。8万5000円(タナーグッズ/スタンダードメイド)



[クロスキャンバスカンパニー]  
CROSS CANVAS COMPANY

**エイジング映える  
バックパックを生活の相棒に!**

ノースカロライナ製の、良質なキャンバスリュック。生成りのボディとオイルドレザーのストラップが、自分色に味出しされるのが楽しみ。W 35.5×H 40.6cm。1万6000円(クロスキャンバスカンパニー/ギャレット)



[オーエヌエー]  
ONA

**スタイル重視の写真家は  
カメラバッグも格好よく!**

フルグレインレザー仕立てのレトロ顔だけど、一眼レフカメラ1台と4~6本のレンズ、13インチのラップトップが入る収納スペースを用意。W 31×H 44×D 15cm。実勢価格6万9120円(オーエヌエー/アイデアミクス)

\*実勢価格は編集部調べ



[クレッターワークス]  
KLETTWERKS

**街と自然を行き来する  
デュアルライフに最適!**

リュック界の巨匠デイナー・グリーンソンが、1970年代に立ち上げたブランドを復活。シンプルだからこそ丈夫な構造は、ラップトップを収納しても安心。W 26×H 44.5×D 14.5cm。2万9000円(クレッターワークス/エイアンドエフ)



[メロ]  
MELO

**収納した小物をパッと  
出したい人にぴったり!**

“3ポケットバックパック”という名のとおり、フロントに3つの収納があり、これがスマホやドリンクといった小物を小分けにするのにとっても便利。W 34×H 35×D 14cm。1万2500円(メロ/マルショウエンドウ)



[イグノーブル]  
IGNOBLE

**どんなスタイルにもハマる  
ミニマル志向が好印象!**

リュックをガバッと開けられてダブルバッグのようにも持てるリュックは、自分らしいスタイルで使える作りが魅力。全製品を黒で統一しているのも特徴。W 30×H 55×D 22cm。4万(イグノーブル/スタディ ショールーム)